

本年度の重点目標

- (1) 特別支援教育の推進と教育課程と教育内容の充実
 (2) 地域に開かれた学校づくり
 (3) 安全、安心な学校づくりの推進

領 域	重 点 評 価 項 目	中間評価(10月)	総合評価 (3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	教育方針や教育目的を共通理解し、教育活動に反映している。	A		
	専門性を生かし、地域の特別支援教育の推進に努めている。	A		
	地域とのつながりを目指し、学校運営協議会の意見を生かした学校経営に努めている。	B		
2 教育課程・学習指導	社会に開かれた教育課程の実現を目指し、児童生徒一人ひとりに適した授業づくりと、授業改善に取り組んでいる。	A		
	児童生徒同士の関わりや主体的な活動を大切にして、「学ぶ力」の向上に努めている。	A		
	I C T機器を積極的に活用しながら、児童生徒の教育活動を進めている。	B		
3 生徒指導	安全確保に努め、児童生徒の実態に合わせた通学指導に努めている。	A		
	きめ細かな生活指導と自主的自発的な活動意欲を育てている。	A		
	いじめ等を見逃さないよう児童生徒の小さな変化に気をつけ日々の指導にあたっている。	A		
4 進路指導	児童生徒・保護者の希望を尊重し、小・中・高一貫したキャリア教育の視点を踏まえた進路指導を進めている。	A		
	家庭や関係機関との密接な連携を行い、児童生徒の自己実現に向けた取組を進めている。	A		
5 保健・安全指導	怪我や事故、病気などの未然防止や予防、緊急時の対応を適切に行なっている。	A		
	保健、給食、安全指導、防災（避難）訓練を計画に基づいて効果的に行なっている。	A		
6 人権教育	特別支援教育に関わる教職員として人権意識の高揚に努めている。	A		
	児童生徒一人ひとりの人権を尊重した適切な課題設定と指導に努めている。	A		
7 環境教育	節電や裏紙の利用、ごみの分別など、児童生徒の実態に応じた指導を行っている。	B		
8 交流及び共同学習	副籍制度の活用や、地域、近隣の学校との交流及び共同学習を進めている。	A		
9 教職員の現職教育	児童生徒の発達・障害・生活に応じた指導ができるように専門性の向上に努めている。	A		
	授業研やケース研などによる実践研究を進め、授業改善と指導力の向上に努めている。	A		
	職員の指導力向上を目指して、I C T機器の活用についての研修に取り組んでいる。	B		
10 センター的機能の発揮	保幼小中の教員や保護者に対し教育相談活動および関係諸機関との連携に努めている。	A		
	研修会や懇談会の計画・実施などの啓発活動、情報発信を行なっている。	A		
11 その他学校の取組み	医療的ケアを適切に行なえるよう、校内環境や体制の整備に努めている。	A		
	施設、設備の整備を計画的に進め、教育環境の整備に取り組んでいる。	B		

(注) ・評価については、A B C Dの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のI C T活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価：A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はA、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はB、あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はC、達成できていない場合（達成度40%未満）はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。